

第 30 回日本未病学会学術総会開催にあたって

第 30 回日本未病学会学術総会

会長 高柴 正悟

岡山大学 学術研究院 医歯薬学域 教授（歯周病態学分野）



テーマ：「食と健口」

第 30 回日本未病学会学術総会は、30 周年の区切りを記念して、『未病の日』（養生訓の著者である貝原益軒の誕生日である 12 月 17 日）に開催することになりました（大会開催日程：2023 年 12 月 16-17 日）。新型コロナウイルス感染症の蔓延にも負けず、対面で皆様と岡山の地でお目にかかれることを楽しみにしております。

この度の学術総会では、歯科部会に所属する高柴の専門である「歯周病」と「う蝕症」という歯科の 2 大疾患を細菌感染症と慢性炎症の観点から顧み、全身の健康を未病までで過ごすためには「健口」が大切であるということに加えて、栄養摂取の最初である「食事」が重要であることから、『食と健口』を学術集会のテーマとしています。

特に成人以降は、腹八分目の食事が中年から老年にかけての健康維持にとっても重要とされています。一方で若年者の咀嚼不足による顎周囲の成長への悪影響は、食事の方法や呼吸の方法への悪影響があることも分かっています。ことさら食事内容の偏りは、若年期からの成長や健康に大きな影響を与えます。

そこで、日本未病学会の各部会によるシンポジウム、特別講演、教育講演、さらにはランチョンセミナーなどをおして、学術集会のテーマに沿って未病を達成するための方法を皆様と考えて、社会へ発信したいと思えます。

晩秋から初冬に至るこの時期に多くの皆様が岡山にご参集下さり、岡山の美味しい果物、お酒、そして瀬戸内の魚を楽しみながら、「食と健口」から未病を目指すために有意義な情報交換の時間を共有されますようお願いいたします。